

令和元年度 第1回逗子市生涯学習推進懇話会 会議概要

- 日 時 2019年（令和元年）5月28日（火） 10：00～12：00
- 会 場 市役所5階 第3会議室
- 出 席 懇話会メンバー 金山彰風、大石忠、津留崎寿美子、佐藤朋子、岸原晃、
門居敏子、塔本正子、七海耕一、宮下重美、杉本大季（敬称略）
アドバイザー 澁谷昌史（敬称略）
- 欠 席 懇話会メンバー 岸名佑未子、柳原正廣（敬称略）
- 事務局 市民協働部：石井聡次長
市民協働課：中川公嗣係長、北村絵理主事
- 傍聴者 なし
- 配布資料
 - 資料1 逗子市生涯学習推進懇話会メンバー名簿
 - 資料2 総合計画・基幹計画・個別計画の進行管理について
 - 資料3 個別計画進行管理総括表1、2
 - 資料4 今後のスケジュールについて

○開会

次長あいさつ

○提案

メンバー：検討する項目はここしばらく変わっておらず、平成28、29年にも同じように評価をしているので、その結果を経過紹介のために皆さんに配布してはどうか。メンバーも変わっているので。もう1つは、評価をしていくにあたって評価の基準が本日の資料にないので、配布していただきたい。

石井聡次長：これまでの評価については、次回の懇話会までに用意する。評価の基準については、本日配布するようにします。

○議題

【生涯学習活動推進プランの評価について（事業進行管理表（平成30年度））】

1. 共育ネットワーク構築事業

メンバー：共育フェスティバルについて、今ある資料では企画から実施、評価まで詳しいことが分からないので、事後評価までされたのかどうか教えていただきたい。

メンバー：共育フェスティバル、ふれあいフェスティバルについて前回より市内や市外か

ら参加者が増えたということで、充実してきている印象を受ける。特に12月、障がい者とのふれあい、障がい者同士のふれあいの場があり、自分も参加したことでこういった場の大切さを感じた。PRの仕方をもっと工夫すると、より良いと思う。実施場所については、障がい者の参加を考えると交流センターのような階の移動のある建物より、1フロアでまわれる体育館や第一運動公園のような場所でブースを設けて実施することが良いのではないかと感じた。

副座長：「おやこのひろば」について、逗子市育児サークル連絡協議会と市が20年以上共催している「親子ひろば」と名称が非常に似ていて混同してしまうので、新しい事業を始める際には既存の名称と似たものは避けてほしい。

座長：どのようなPRがされたのか記載されていた方が好ましい。

2. 生涯学習講座事業

座長：ずし楽習塾について、参加料はとっているか。

メンバー：I型は、市民講師が開く講座なので受講料をとっている。II型は市民グループが講座を開いており、これまでの実績では受講料をとったことはない。III型は最近充実してきてはいるものの、資料代程度の徴収のみである。IV型は特に逗子に関係するテーマで講座を開いており、これについても現状は無料で実施している。

メンバー：資料にアンケート集計がついているが、これだけ詳細のアンケートをとったのなら、講座の事後評価を行ったのか、それが次の講座に活かされているのかどうか伺いたい。

メンバー：社会教育委員会議を代表して来ているが、先週会議があり事後評価について議題にあがった。一つひとつの講座のアンケートを見て、コメント等も見ながら次の講座について話し合いを行っている。

メンバー：ずし楽習塾講座についても、全講座についてアンケートを行っており、今後どのような講座を望むかという項目も入っている。まとめたものは市民交流センターへ提出している。

メンバー：先日、社会教育委員会議で社会教育課以外の課がどのような講座を行っているか知りたいという話題になり、資料をもらった。抜け漏れはあるかと思うが、財政難の中において全体を把握することは良いことだと思う。同じような企画の講座を開催する必要はない訳で、課ごとに情報共有をして無駄をなくすことは大切。

座長：講座にかぶりがない方が良いという意見もあるが、一方で、一度だけでは都合が付かずに参加できないなどの状況もあるので、一概に重複が良くないとは言えないこともあると思う。

メンバー：講座を実施する主体が協力しあうことでもっと効率的で充実したものになっていくはず。

メンバー：管理表にもあるが、市内の講座を管理するような、一括したシステムは構築さ

れているか。

石井聡次長：追加資料の1枚目に、ホームページの「ナニスル」のイメージがあるが、これが市民活動と生涯学習の情報サイトになっており、イベント情報は市が行うもの、市民の方が行うものを分けずに同じカレンダーの中で見られる形式になっている。何万人規模のイベントから十数人のイベントまで幅広く集約している。直近の予定を立てるのに使えたり、ここに情報を入れておくことで同じ世代を対象としたイベントを同じ日に開催することを防いだりすることができる。

メンバー：スマイル講座の20回がここにもカウントされていることが疑問であるのと、20講座のカウント方法が不明。他の講座に比べ、内容について資料が分かりにくい。

石井聡次長：体験学習施設の事業についてうまくいっているかという評価は分かりやすいが、生涯学習講座事業の中でこのスマイル講座についても評価せよ、というのは分かりにくく、目標設定等について検討の余地があるかと思う。

3. 市民交流センター相談窓口機能充実事業（⑩を含む）

メンバー：市民交流センターは、市の中心にあって人がたくさん集まる場所。意欲や課題を持った人がたくさんいるはずなので、健常者も障がい者も誰でも話しやすい雰囲気相談カウンターや表示があれば、大きな効果につながるはず。

メンバー：この相談窓口が誰のために機能すべきなのか。高齢者、子どもなど情報弱者に対する対策と私は考えているが、対象が曖昧に見える。

石井聡次長：4年前に市民交流センターの指定管理者を募集した際、現在の指定管理者から、窓口の職員はコンシェルジュを目指します、という提案があった。そういった意味では、単なる窓口の業務をこなす人ではなく、市民活動でも生涯学習でも、来た人に合った提案・情報提供のできる人を目標としている。現状では、まだそこまでいけていないという評価ではあると思う。

座長：どのような相談があったかという記録があると、何が課題となっているのか見えてくる。生涯学習に関わるだけでなく、市民がどのような課題を抱えているかということが分かって、次に私たちにどのようなことができるかを考えることができるのではないか。

メンバー：交流センターを作った際に、窓口で事業等の相談をした時に専門的にアドバイスのできるコンサルティングのようなプロを置くという話があったかと思うがどうなっているか。

石井聡次長：現在の交流センターの館長1名、副館長2名には、一定のコンサルティング業務を行ってもらっている。ただし、得意不得意はあるので、分野によって3名で分担している。生涯学習の専門家ではないので、少し弱い部分はあるかと思う。

メンバー：窓口には、ここではどのような情報が得られるかということが分かる表示がされているか。

石井聡次長：窓口で相談を受ける時には通常の窓口とは横にずれた場所で行っているが、外から見て分かりやすい状況にはなっていない。

メンバー：相談が少ないという自己評価であれば、見て分かりやすい工夫をすべき。

4. 共育ポータルサイト活用事業（共育ネットワーク構築事業）（⑨を含む）

メンバー：ポータルサイトのアクセス数が増えたとのデータがあるが、どのくらいの年代の人がどこからアクセスしたのか知りたい。

石井聡次長：ネット上のアクセスは、誰がどこからということ把握することは難しい。ポータルサイトが有効であったかどうかは、例えば講座等のアンケート結果で「何で講座のことを知ったか」を集計して、ポータルサイトの情報から興味を持ったのか、評価をしていくしかない。

メンバー：そういった結果からの分析だけでもしていくことが好ましい。

メンバー：「ナニスル」の画面を見ていると、メンテナンスがうまくいっていない印象を受ける。選択項目が変であったり、既に配布していないZ e nの対象の有無があったりなど、情報を定期的に整理する必要がある。

昨年も指摘したが、ボランティア会員情報のページは単なる会員募集のページになってしまっているので改善してほしい。

「ナニスル」の情報では託児あり・なしの掲載しかないが、ちらしをよく見ると事前申込みが必要であることが多いので、託児の有無だけでなく「事前申込み」といった項目を作った方が分かりやすい。

メンバー：指定管理者が行っている部分が多い中で、今年はこれができた、できなかったなど自己評価をしているはずなので、その結果を知れると良い。

石井聡次長：管理表に記載をしているのが指定管理者なので、それが自己評価となっている。

メンバー：昨年と比べて、こんなことが改善されたなどが分かると、評価しやすい。

○アドバイザー講評

アドバイザー：前任の高橋先生から非常に活発、丁寧に議論が行われている会議でとても楽しいと話を聞いていたが、まさに同じ気持ちになった。いくつか行政の会議にも出席しているが、評価の項目が多いと議論にならずに行政の評価を承認する形の会議になりがちだが、今回の会議で皆が理解しながら進め、これはどうなっているのか、分かりにくいのではないかと一つひとつの言葉がとても重みのあるものに感じられた。私自身も資料だけでは分からない部分があったが、話を聞く中でどのような経緯があったのかを知ることによって、これまでの逗子市の生涯学習推進プランの発展が見えてきたと思う。会議の回数は限られるが、メンバー一人ひとりから評価シートを受け、

行政も含めこの場で共有できることはとても良い仕組みだと感じた。
最近、包括性やワンストップという言い方をするが、市民から見てどう感じるかが大切。その中で例えば「ナニスル」は、課や行政を越えて情報が見える、発展してきた仕組みだと思う。そういった発想を、窓口やその他の色々なサービスに活かし、包括的に、ここに行けば全体が分かり、その中から自分に合ったものが見つけられる、というサービスの工夫をしていかなければいけない。次回以降も、勉強しながら一緒に汗をかいていきたい。